

編集後記

Redaktionelle Anmerkungen

『フィヒテ研究』第32号をお届けいたします。

今号は、WEB版の第2号ということになります。まず、日本フィヒテ協会海外特別会員だったディーター・ヘンリッヒ氏(2022年、逝去)の「フィヒテの根源的洞察」をテーマとした共同討議に関連して、本討議の意義(大橋容一郎氏)と論考(湯浅正彦氏、櫻井真文氏)を掲載しました。次に、日本フィヒテ協会創立に尽力し、協会長も務めた大峯顯氏(2018年、逝去)とフィヒテ哲学との関係をテーマとしたシンポジウムに関連して、司会者報告(入江幸男氏)と論考(岡田勝明氏、美濃部仁氏)を掲載しました。いずれも、たんに故人の業績を顕彰するだけでなく、同時にその思考について検証がなされる優れた研究論文にほかなりません。一抹の不安は、今回、若手研究者による投稿論文の応募がなかった点です。過去の遺産を頼りとし続けるばかりにならないだろうか、という思いが、杞憂に終わることを祈念してやみません。

今号も、編集委員会が原則として各論考をそれぞれ2人体制で校正いたしました。語句や引用の表記の仕方について、全体で統一を図ることは難しく、ひとつの論考内における統一を心掛けました。残念ながら、至らぬ点多々見受けられることと思います。ご助言など、いただけますと幸いです。

2024年9月30日

編集委員長 舟場 保之
Yasuyuki FUNABA